

平成23年 7月25日公表

生産者の米穀在庫等調査(平成22年度)

【調査結果の概要】

- 1 平成22年度（平成22年4月～23年3月）における販売農家1戸当たりの米の供給量は5,920kg、消費量は373kg、販売量は5,281kgとなった。
- 2 平成22年度末における販売農家1戸当たりの在庫量は、年度始在庫量565kgに比べ43kg減少し、522kgとなった。

表 販売農家1戸当たり供給量、消費量、販売量及び在庫量等

単位：kg

区 分	平成22年度		
	計	水稲うるち米	水稲もち米
年度始在庫量	565	548	17
供給量	5,920	5,710	210
消費量	373	355	18
販売量	5,281	5,102	179
無償譲渡	291	280	11
その他（消失等）	18	16	2
年度末在庫量	522	505	17

注：1 本調査結果は、平成22年度より販売農家1戸当たり平均値として取りまとめを行っているため、前年度の数値はない。

2 年度末在庫量は、平成23年3月末在庫量である。

- ◎ 調査結果の利活用
「食料需給表」の作成のための資料等に利用。

- ◎ 関連データ

水稻の動向（全国）

年産	作付面積	収穫量	10a当たり収量
	ha	t	kg
平成17年産	1,702,000	9,062,000	532
18	1,684,000	8,546,000	507
19	1,669,000	8,705,000	522
20	1,624,000	8,815,000	543
21	1,621,000	8,466,000	522
22	1,625,000	8,478,000	522

資料：農林水産省大臣官房統計部『作物統計』、平成22年産の数値は『平成22年産水陸稲の収穫量』

【統計表】

1 販売農家1戸当たり供給量、消費量、販売量及び在庫量等

単位：kg

区 分	平成22年度		
	計	水稻うるち米	水稻もち米
年度始在庫量	565	548	17
供給量	5,920	5,710	210
脱穀量	5,832	5,636	195
購入量	88	74	14
消費量	373	355	18
飯用	331	315	16
飼料用	2	2	0
は種用	33	32	1
加工用	4	3	1
その他	2	2	0
販売量	5,281	5,102	179
J A 等	…	3,865	…
卸売業者	…	325	…
小売業者	…	149	…
外食事業者	…	46	…
一般消費者	…	615	…
その他	…	102	…
無償譲渡	291	280	11
その他（消失等）	18	16	2
年度末在庫量	522	505	17
うち精米除く	499	486	14

注：1 水稻もち米については、販売先別に調査をしていない。

2 四捨五入の関係で計と内訳が合わない場合がある。

2 販売農家1戸当たり年度末在庫量

単位：kg

全国 都道府県	平成22年度		全国 都道府県	平成22年度		全国 都道府県	平成22年度	
		精米除く			精米除く			精米除く
全 国	522	499	富 山	370	353	島 根	429	410
北 海 道	988	940	石 川	452	428	岡 山	582	567
青 森	539	471	福 井	534	515	広 島	634	609
岩 手	510	485	山 梨	419	397	山 口	546	530
宮 城	479	461	長 野	458	432	徳 島	380	364
秋 田	376	355	岐 阜	539	517	香 川	355	338
山 形	544	517	静 岡	755	737	愛 媛	468	445
福 島	499	483	愛 知	537	514	高 知	477	459
茨 城	584	565	三 重	425	408	福 岡	585	564
栃 木	592	573	滋 賀	452	432	佐 賀	407	343
群 馬	469	451	京 都	615	598	長 崎	622	603
埼 玉	596	580	大 阪	518	505	熊 本	502	491
千 葉	654	638	兵 庫	574	558	大 分	485	466
東 京	460	439	奈 良	612	595	宮 崎	541	523
神 奈 川	541	519	和 歌 山	660	644	鹿 児 島	546	528
新 潟	456	420	鳥 取	456	433	沖 縄	95	86

注：年度末在庫量は、平成23年3月末在庫量である。

【調査の概要】

1 調査の目的

本調査は、生産者の米穀の在庫量、供給量、消費量、販売量等の実態を把握し、米穀の需給及び価格の安定を図る観点からの食糧行政の円滑な遂行等、各種行政施策の推進のための資料を整備することを目的とする。

2 調査の対象

本調査は、2005年農林業センサスに基づく農業経営体のうち、販売目的で水稻を10アール以上作付けた販売農家を対象に実施した。

3 調査戸数

5,184戸

なお、調査期間中に東日本大震災により岩手県、宮城県及び福島県の一部の調査対象農家が調査不能となったこと等から、調査票の回収戸数は平成23年3月末現在で5,072戸となった。

4 調査事項

月始在庫量、供給量、消費量、販売量、月末在庫量等

5 調査期日

調査期日は毎月末現在とする。

6 調査方法

調査員が調査対象農家に対して調査票を配布及び回収する自計調査の方法により行った。

なお、調査票についてはそれぞれ以下の時期に回収した。

平成22年4月及び5月分：同年6月上旬

同年6月から8月分まで：同年9月中旬まで

同年9月から翌年3月分まで：翌年4月中旬まで

7 集計方法

集計は、都道府県別及び水稻作付面積規模別に、集計対象区分ごとに各調査項目について、うるち米、もち米の別に、次式により行った。

<1戸当たり平均値の算出方法>

$$\bar{x} = \frac{\sum_{i=1}^n w_i x_i}{\sum_{i=1}^n w_i}$$

- \bar{x} : 当該集計対象区分における1戸当たり平均値の推定値
 x_i : 当該集計対象区分に属するi番目の調査対象農家の調査結果
 w_i : 当該集計対象区分に属するi番目の調査対象農家のウェイト
 n : 当該集計対象区分に属する調査対象農家数

ウェイトは、調査対象農家別に定めるものとし、それぞれ、都道府県別、水稻作付面積規模別に区分した階層ごとに、次により算出した標本抽出率の逆数とした。

$$\text{標本抽出率} = \frac{\text{当該階層から抽出した調査対象農家数}}{\text{2005年農林業センサス結果による当該階層の大きさ（販売農家数）}}$$

8 実績精度

脱穀量を指標とした実績精度は0.4%である。

9 用語の解説

消費量うち飯用	調査対象農家の所有する米穀（譲り受けたもの又は購入したものを含む。）のうち、食用のために使用した米穀の量をいう。 なお、雇い人及び来客の食事に使用した米穀の量を含む。
消費量うち飼料用	家畜等の飼料（えさ）として使用した米穀（くず米等）をいう。
消費量うち加工用	みそ、しょうゆ、穀粉等の原料として使用した米穀の量をいう。
無償譲渡	贈答等、無償で譲り渡した米穀の量をいう。
その他（消失等）	販売や無償譲渡以外に、災害等により米穀として使用できなくなった米穀及び盗難にあった場合等の米穀の量をいう。 なお、本区分には、調査対象農家の切替え等から生ずる集計上の誤差を含めている。
在庫量	農家が手持ちしている米穀の数量をいう。この数量には、JA等に寄託保管しているもの、販売予約済又は手付金受領済であって現品を当該調査対象農家以外の者に引き渡していないものを含む。

10 統計表の見方等

表中に用いた記号は以下のとおりである。

「0」：単位に満たないもの（例：0.4kg→0kg）

「…」：事実不詳又は調査を欠くもの

11 東日本大震災の影響

東日本大震災の影響により、岩手県、宮城県及び福島県の一部の調査対象農家の調査票（平成22年9月分から平成23年3月分まで）を回収できなかったことから、集計においては、以下のとおり行った。

- (1) 震災前である平成22年9月分から平成23年2月分については、回収できなかった調査対象農家の所有していた米穀は、本来存在していたと見なされることから、同一県内で、当該農家と作付面積規模が同程度の、回収できた調査対象農家の調査票データを用いて代替補完し集計した。
- (2) 震災後である平成23年3月分については、回収できなかった調査対象農家の米穀は、被災により消失したものと見なし集計した。

12 その他

この資料の詳細な数値については、ホームページに掲載（平成23年10月予定）するとともに、その後年次報告書として刊行する。

なお、ホームページに掲載した後の正誤情報はホームページでお知らせする。

【ホームページ掲載案内】

- 各種農林水産統計調査結果は、農林水産省ホームページ中の統計情報でご覧いただけます。

【 <http://www.maff.go.jp/j/tokei/> 】

この結果の分野別分類は「作付面積・生産量、被害、家畜の頭数など」、品目別分類は「米」に分類しています。

問合せ先

◎本統計調査結果について

農林水産省 大臣官房統計部

経営・構造統計課 分析班 電話：03-6744-2042

◎農林水産統計全般について

農林水産省 大臣官房統計部

統計企画課 広報普及班 電話：03-6744-2037